

小・中学校

平成10年度

# 教育研究員研究報告書

書 写

東京都教育委員会

## 平成10年度教育研究員名簿（書写）

書 写	地 区	学 校 名	氏 名
○	江 東	東 川 小 学 校	小橋川 みどり
	杉 並	和 泉 小 学 校	五十嵐 よ志子
	足 立	興 本 小 学 校	小野田 いづみ
	八王子	松 枝 小 学 校	片 岡 敬 子
	新 宿	西 戸 山 中 学 校	金 子 悦 子
	台 東	浅 草 中 学 校	横 川 正 雄
	大 田	大 森 第 四 中 学 校	佐 藤 友 美
	小 金 井	小 金 井 第 二 中 学 校	山 本 裕 幸
	瑞 穂	瑞 穂 中 学 校	長 谷 川 まゆみ

○世話人

〔担当〕 教育庁指導部指導企画課指導主事   釧 持   勉  
          都立教育研究所指導主事   新 井 啓 子

## 目 次

I	研究主題設定の理由 .....	1
II	研究の構想	
1	研究の基本的な考え方 .....	1
2	研究の全体構想図 .....	2
III	研究の内容 .....	4
IV	実践事例	
<小学校第6学年>	.....	7
<中学校第1学年>	.....	14
V	指導方法の改善（ティーム・ティーチング）の有効性について .....	20
VI	研究のまとめと今後の課題 .....	24

# 研究主題 基礎・基本を身に付け活用できる書写指導の工夫

## I 研究主題設定の理由

様々な情報が氾濫する現代社会においては、それらを適切に判断して取捨選択し、自分の生活に生かせるようにすることが大切である。また、価値観が多様化するなか、個性を生かすために、豊かな表現力が必要とされている。

国語科書写においては、目的や必要に応じて、文字を正しく整えて調和よく書く能力、及び、それを生活に役立てる態度を育てることをねらいとしている。場面に合った用具・用材を選択し、どのように文字を書いたら良いかを適切に判断し、効果的に書く能力を育てることが、学校教育における書写の役割であると考えられる。

子供たちはごく自然な気持ちとして、より字が上手になりたいという願いを抱いている。その反面、どうしたらもっと字が上手になれるのかわからない、知りたいといった悩みや疑問が、多くの子供たちに共通して見られる。したがって、児童・生徒に文字の特質や機能の重要性を認識させ、文字の正誤、適否、美醜などの判断力、つまり書写の基礎・基本につながる文字感覚を身に付けさせる必要がある。さらに、身に付けた基礎・基本を日常の書写活動に生かす力も、自己を表現する手段の一つとして、今後ますます必要とされてくる。

本年度は、子供たちの実態を総合的に考え、平成8年度からの研究主題「基礎・基本を身に付け活用できる書写指導の工夫」を引き継いだ。

## II 研究の構想

### 1 研究の基本的な考え方

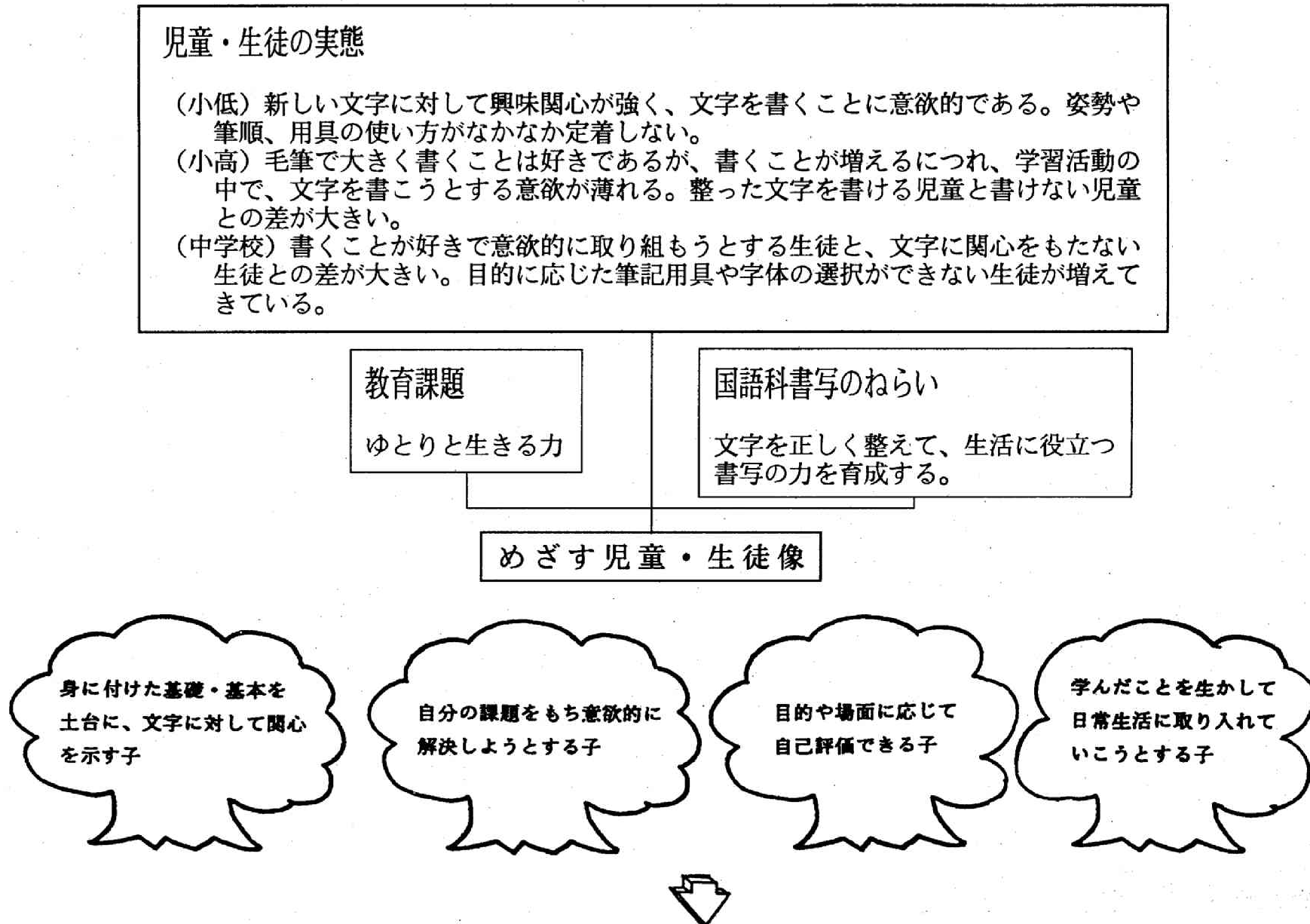
児童・生徒の実態を考えると、楽しく書くことへの意欲を持たせることが大切である。意欲的な書写の学習を通し、正誤、適否、美醜等の文字感覚を養うことになる。学習過程で自分の問題意識をもって取り組めたならば、意欲はさらに高まる。また、課題を解決していく中で、達成感、成就感につながる評価が行われれば、学習の効果が表れ、基礎・基本が身に付くはずである。基礎・基本が身に付けば、日常の書写活動にも活用されていくはずである。

そこで指導実践の過程で、次の4点に視点を置き、研究の主題に迫ることにした。

- ① 自分の課題に気付き、課題意識をもって学習に取り組むための工夫
- ② 楽しく意欲的に取り組むための工夫
- ③ 達成感、成就感につながる評価の工夫
- ④ 日常生活に生かすための工夫

さらに、このような指導の工夫を実践していく中で、個々の児童・生徒に対応するための指導法として、「チーム・ティーチング」(以下、T.T.とする)が有効であると考え、授業研究の実践にもこの指導法を用いることにした。

## 2 研究の全体構想図



## 研究主題

基礎・基本を身に付け活用できる  
書写指導の工夫



## 仮説

楽しく学習し、正誤、適否、美醜等の文字感覚を養う中で、自分の課題を発見し、意欲的な取り組みができれば、基礎・基本が身に付き、その活用が図れるであろう。



## 研究の視点と指導の工夫

①自分の課題に気づき、課題意識をもって学習に取り組むための工夫

- ・空書
- ・めあての明確化
- ・拡大文字による基準の明確化
- ・分解文字の操作
- ・示範（水書板、二色筆）
- ・試し書きと教材文字との比較
- ・T.T.による指導の工夫
- ・練習用紙作成の工夫
- ・学習カード

②楽しく意欲的に取り組むための工夫

- ・いろいろな練習コーナーの場の設定  
（二色筆コーナー、水書板コーナー  
分解文字コーナー、練習用紙コーナー  
相談コーナー、スクリーンコーナー  
掲示コーナー）
- ・練習方法別T.T.
- ・硬筆毛筆関連の学習カードの工夫
- ・用具の工夫（硬毛ペン、書写ファイル  
書写鉛筆）
- ・指導計画の工夫

③達成感、成就感につながる評価の工夫

- ・学習カードの工夫（文、記号、シール）
- ・児童・生徒による自己評価、相互評価  
（スクリーン、展示、発表）

④日常生活に生かすための工夫

- ・硬筆毛筆関連の工夫
- ・文字感覚を高め生かせる場の設定  
（掲示物、教室環境、ノート等）

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 自分の課題に気付き、課題意識をもって学習に取り組むための工夫

##### (1) 教材や基準を分かりやすく提示する工夫

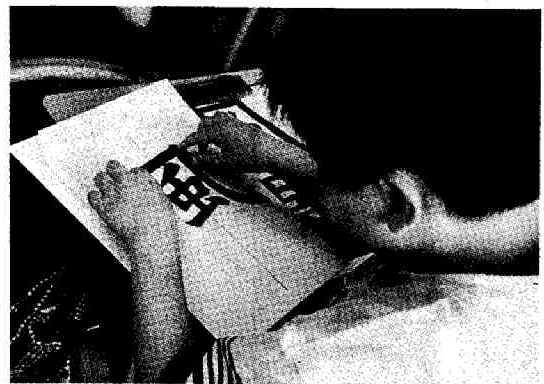
- ・教材を提示する時には空書をして筆順の確認をする。
- ・拡大文字や分解文字を提示して、文字の基準をわかりやすくする。
- ・分解文字を操作して自己評価や相互評価をすることにより、文字の基準を明確にする。
- ・水書板・教材提示装置などの用具や機器を使い、示範して筆使いを示す。

##### (2) 課題に気付かせるための工夫

- ・試し書きと教材文字を比較して、点画の違いや字形、文字の大きさなどに着目させ、中心線や記号などを書き入れ自分の課題をつかむようにする。

##### (3) T.T.による指導の工夫

- ・明確な役割分担をすることにより、教師の持ち味を生かしながら多様な学習展開をしていくようにする。



分解文字の操作

##### (4) 課題意識を高めるための指導の工夫

- ・学習カードを用いて、共通のめあてにそった自分の課題を記入する。
- ・課題に合った練習用紙を自己選択したり、自分で作成したりする。
- ・練習用紙は段階を追い、容易なものから困難なものになるように作成し、中学年においては課題に合った用紙の選択ができるように、また高学年においては自己作成ができるようにする。

##### (5) 評価の工夫

- ・同じ課題をもつグループ内で、相互評価する。
- ・学習カードに評価を記入する。

物	庫	忠	永
物	庫	忠	永

●鉛筆で練習しよう

早	田	衣
美	金	真

●中心に気をつけて書きまわすようにしよう

巻	宝	忠	永	風
物	庫	告	久	景
巻	宝	忠	久	景
物	庫	告	久	景

●中心に気をつけて書きまわすようにしよう

## 風景

ふうけい

### 南

みなみ

### 素

す

### 季

き

●風と景を中心にあわせろ。

●風の二画目を少しそろそろ

●景の口を小さくする。

#### 美しい風景カード 六年

◎文字の中心や行の中心に注意して、字形を整えて風景を書こう

## 2 楽しく意欲的に取り組むための工夫

### (1) 課題に適した学習方法の工夫

- いろいろな練習コーナーを設定することにより、楽しく取り組めるようにする。

各コーナーでの操作活動では、分解文字、二色筆、水書板、粘土、モールなど多様な用具を準備し、個々の書写力に応じて自己選択ができるようにした。

相談コーナーでは、T.T.の特性を生かして、教師に個別に相談し、指導を受けるようにした。

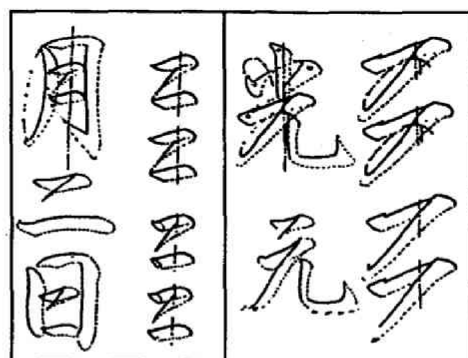
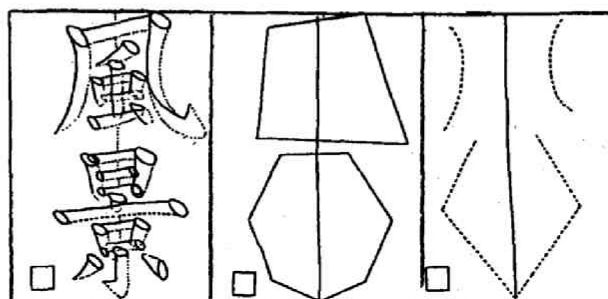
スクリーン・掲示コーナーでは、学習した成果を大きく映しだしたり、掲示の仕方を工夫することにより、学習の成果がわかり意欲につながるようにした。

自学習（一人学び）コーナーでは、めあてにそった段階的な練習用紙を準備して課題が達成できるようにした。

いずれのコーナーにおいても、個々のめあてに応じて対応できるように用具や場所の設定を柔軟に行った。



水書板コーナー



練習用紙の作成

### (2) 学習形態の工夫

- 課題別グループの座席にして、相互評価がしやすいようにする。
- 教材別の形態も取り入れ、互いの良さを認め合うようにする。

### (3) 指導計画の工夫

- 30分、60分または2単位時間連続の授業時間を取り入れるなど弾力的な時間の運用を図り、学習意欲の持続につながるようにする。
- 大単元の基に、各教科、領域を取り外して実践していくことにより、児童・生徒の願いや思いが達成できるようにする。

### (4) T.T.による指導の工夫

- 個別指導の場や機会を増やすことで適切な評価や助言を行い、学習意欲を高めていくようにする。

### 3 達成感、成就感につながる評価の工夫

#### (1) 児童・生徒による自己評価・相互評価の工夫

- ・記号やシールなどを使って、評価ができるように学習カードの工夫をする。
- ・練習用紙に自己評価の欄を設けて、めあてを確認しながら学習が進められるようにする。
- ・学習の目標を明確化して正しい自己評価につなげていくようにする。その際、低学年においては、批正のポイントや、評価の基準を視覚に印象付ける工夫をしていくようにする。
- ・相互評価により、お互いの良さや伸びを発見し合い、成就感を味わわせることで主体的な学習が進められるようにする。
- ・評価は作品に対する評価ではなく、課題に即した評価であることを意識付け、次時への意欲につながるようにする。

#### (2) 教室掲示の工夫

- ・課題別掲示や、試し書きとまとめ書きを並べて掲示することにより、自己の変容が視覚で捉えられ、課題が達成できたか分かるようにする。

### 4 日常生活に生かすための工夫

#### (1) 硬毛関連による指導の工夫

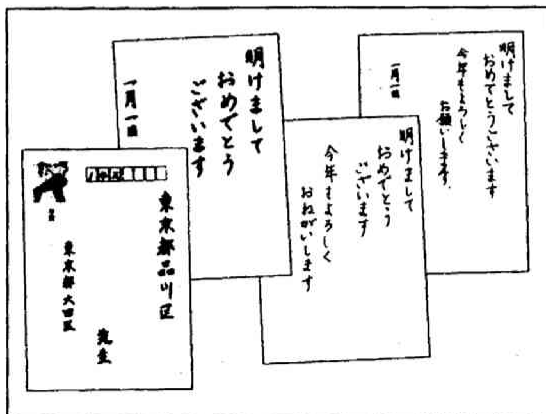
- ・関連文字を練習することにより、学んだことが他の書写活動に生かされるようにする。
- ・低学年では、毛筆で書いた教材を使用したりして、始筆・終筆・とめ・はらいなどへの意識を高めるようにした。

#### (2) 文字環境の工夫

- ・教室や廊下など文字環境を整え、自分の文字を振り返る機会をつくり、文字感覚を高めていくようにする。

#### (3) 発展学習の工夫

- ・目的や意図するものにより、適切に用具を選択しながら、学んだ事を他の学習や日常の文字に生かせるよう継続的に指導する。



年賀状作成



俳句づくり



## IV 実践事例

### 〈小学校第6学年〉

#### 1 単元名 文字の中心、行の中心「風景」・毛筆から硬筆へ

#### 2 単元の目標

- ・文字の中心をそろえ、文字を整えて書けるようにする。
- ・封筒の書式を正しく理解し、文字の中心・行の中心・文字の大きさに注意して、曲がらないで書けるようにする。
- ・自ら課題をもち、進んで学習することができる。

#### 3 単元について

第6学年の書写学習においては「文字の形、大きさ、配列などを理解して書くこと」「毛筆を使用して、文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「毛筆を使用して、文字の大きさなどに注意しながら、字配りよく書くこと」が、指導事項としてあげられている。

6年生になると、学習する漢字も難しくなり、また書く量も増えてくる。それに従って、正しく整った文字を書こうとする意識も薄れてきつつある。この時期に、これまで学習してきた、基礎的・基本的事項をふまえて、十分に指導する必要がある。

そこで、本単元では文字の中心や行の中心に注意して、字形を整えて書く学習を通して、文字の中心をまっすぐそろえることで行の中心が整うことを理解させ、中心を意識して書く態度を育てていきたいと考えた。

また毛筆で学習した「行の中心」を硬筆にも生かし、行の中心や文字の大きさに注意して、整った文字で、読みやすく、見やすく書けるようにするなど、書写力の向上につなげていきたいと考えた。

#### 4 研究主題との関連

##### (1) 自分の課題に気付き、課題意識をもって学習に取り組むための工夫

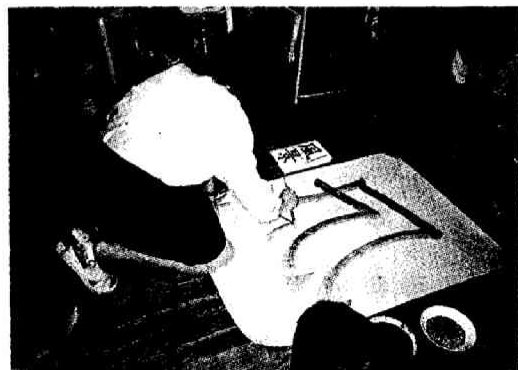
主体的に学習するためには、児童自らが、自分自身の課題を明確に捉えられるようにするための工夫が必要である。

##### ① 教材や基準をわかりやすく提示する工夫

- ・空書で筆順の確認を行う。
- ・拡大文字や分解文字を提示する。
- ・一人一人に分解文字を配布し、基準を確認しやすくする。
- ・筆使いで気をつけるところは、模造紙に二色筆で大きく示範する。

##### ② 課題に気付かせるための工夫

- ・試し書きと教材文字を比較し、試し書きに自分の課題を赤ペンで書き込む。
- ・分解文字を操作しながら基準を確認し、自らの課題に気付く。



二色筆による示範



自作の練習用紙

③ T.T.による指導の工夫

- ・発言をまとめる役と板書をする役を分担し、学習内容を振り返って確認できるようにする。

④ 課題意識を高めるための指導の工夫

- ・課題意識を高めるために、学習カードに自分の課題を記入する。
- ・自分の課題に合った練習用紙を自分で作成する

(2) 楽しく意欲的に取り組むための工夫

児童が課題解決のための学習方法を主体的に見つけることができるように工夫することが児童の学習意欲の向上につながると考えた。そこ

で、次のような工夫により児童が意欲的に取り組めるようにした。

① 課題に適した学習方法の工夫

- ・いろいろな練習コーナーの場を設定する。

- ☆二色筆コーナー
- ☆分解文字コーナー
- ☆水書板コーナー
- ☆練習用紙コーナー
- ☆相談コーナー
- ☆スクリーンコーナー
- ☆掲示コーナー



相談コーナー

② T.T.による指導の工夫

- ・練習方法別に場所を分担し、適切な助言、評価ができるようにする。

③ 指導計画の工夫

- ・2単位時間連続した授業、1単位時間の弾力的な運用などを工夫し、達成感、成就感を得られるようにする。
- ・児童が見通しをもって取り組める学習計画を工夫する。

児童の試し書き（左）とまとめ書き（右）の例

(7) 風がまえと2文字の中心



(1) 風がまえの形と中心



(3) 達成感、成就感につながる評価の工夫

- ① 児童による相互評価・自己評価の工夫
- ・スクリーンコーナーや掲示コーナーの設定により、効果的な自己評価や相互評価ができるようにする。



展示コーナーでの自己評価・相互評価

(4) 日常生活に生かすための工夫

- ① 硬毛関連による指導の工夫
- ・硬毛関連の学習カードを工夫した。
  - ・毛筆のほかに硬毛ペン、硬筆を使用し、毛筆で学習した成果が硬筆にも生きるようにする。
- ② 文字環境の工夫
- ・教室や掲示物の文字環境を整え、文字感覚を高め生かせる場を設定する。

5 児童の実態

5年生から毛筆による書写の学習には興味をもって取り組んできている。書写の時には自分の書いた文字を教材文字と比べて学習の基準を確認し、自分の学習目標に従って教師の用意した練習用紙で練習をしてきた。6年生になってからは、めあてにそった自作の練習用紙を作成し練習している。

しかし、日常のノートの文字を見ると、まんが字や癖字などが目につき、書写での学習が十分に生かされていないと感じられることが多かった。そこで国語の毎日の新出漢字の学習でも児童に各文字の担当を順番に割り当て、黒板に大きく書かせたり、空書を行わせたりして、文字に対する意識を高めてきた。

6年の書写の学習では、これまでに文字の組み立て方（左右・上下・たれ・かまえ）について学習してきている。

本単元教材「風景」について児童が硬筆で書いた実態は以下の通りである。

- (ア) 文字や行の中心があっていない。(19人)
- (イ) 風の凡の部分が正しく書けていない。(11人)
- (ウ) 文字や行の中心に気をつけて字形も整えて書けている。(3人)

6 指導計画（4時間扱い）

第1・2時 文字の中心に注意して字形を整えて「風景」を書く。(2時間) (本時)

第3時 自分で作った短歌や俳句を文字や行の中心に気をつけて短冊に書き、作品として仕上げる。

第4時 封筒の書式について理解し、文字の中心・行の中心に注意して曲がらないように、表書き・裏書きを書く。

7 本時の指導（4時間扱いの第1・2時）

(1) 目標

- ・「風景」の文字の中心や字形に関しての自分の課題を見つけ、意欲的に学習することができる。
- ・文字の中心に注意して、字形を整えて「風景」を書くことができる。

(2) 展 開

学 習 活 動	教 師 の 支 援		主題に迫る ための手立て
	T 1	T 2	
1. 「風景」という文字を書くことを知る。 2. 「風景」を空書する。 3. 毛筆で試し書きをする。 4. 本時のねらいを知る。	(T 2 紹介) ・目を閉じて自分の好きな風景を思い浮かばせる。 ・筆順の確認をする。 ・筆の持ち方・姿勢などについても助言する。	・板書する。	T. T. による指導   拡大文字
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             文字や行の中心に注意して、字形を整えて「風景」を書こう           </div>			
5. 学習の基準を見つける。	・どこに気をつけて書いたらよいか考えさせる。		教科書
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             基 準              ①「風」の7画目が中心になるように書く。              ②「景」の5・10画目が中心になるように書く。              ③「風」のそりに気をつけて書く。           </div>			
6. 分解文字「風」を操作する。(二人に一组)	・凡のところはどのぐらいそらせたらよいか考えさせる。 ・机間指導をする。	・分解文字「風景」を操作する。(黒板)	分解文字
7. 自己批正をし、赤ペンで直す。	・試し書きと教材文字を見比べさせ、自分の課題を明らかにさせる。		硬毛ペン (赤) 書写カード (美しい風景カード)
8. 自分のめあてを考えて書写カードに書く。	・課題を考えられない児童には、机間指導の際、助言する。		
9. 示範を見る。	・模造紙に大きく「風」のかまえを書き、筆の穂先の通る位置を知らせる。		二色筆 模造紙 (朱墨・墨液)

<p>10. 練習する。</p> <p>①練習用紙（かご字）に一枚練習をする。</p> <p>②練習用紙を一枚自作して練習する。</p> <p>③練習方法を選んで自分で練習を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに合った練習のやり方を考えさせる。</li> <li>・課題にあった練習用紙を作成できない児童に助言する。</li> <li>・前半は廊下の児童を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は教室の児童を支援する。</li> </ul>	<p>個々に作成する練習用紙</p> <p>練習用紙の作成例</p>		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水書板コーナー（筆使い練習）</li> <li>・二色筆コーナー（そのの穂先の通る位置確認）</li> <li>・掲示コーナー（達成度確認）</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンコーナー（達成度確認）</li> <li>・分解文字コーナー（字形・中心確認）</li> <li>・練習用紙コーナー（字形・筆使い練習）</li> <li>・相談コーナー</li> </ul> </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・水書板コーナー（筆使い練習）</li> <li>・二色筆コーナー（そのの穂先の通る位置確認）</li> <li>・掲示コーナー（達成度確認）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンコーナー（達成度確認）</li> <li>・分解文字コーナー（字形・中心確認）</li> <li>・練習用紙コーナー（字形・筆使い練習）</li> <li>・相談コーナー</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水書板コーナー（筆使い練習）</li> <li>・二色筆コーナー（そのの穂先の通る位置確認）</li> <li>・掲示コーナー（達成度確認）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンコーナー（達成度確認）</li> <li>・分解文字コーナー（字形・中心確認）</li> <li>・練習用紙コーナー（字形・筆使い練習）</li> <li>・相談コーナー</li> </ul>				
<p>11. 課題をおさえながら学習のまとめをし、自己評価する。</p> <p>12. 掲示コーナーに掲示し、お互いに練習の成果を認め合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試し書きとまとめ書きを比べさせる。</li> <li>・各自の課題にそって評価できているか確認して回り、必要に応じて助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示コーナーの作品を見合い、課題が達成できた児童や、努力の跡が見られた児童は、みんなで称賛する。</li> </ul>			
<p>13. 硬毛ペンで「風景」と書く。</p> <p>14. 中心がはっきりとわかる文字を友達の名前の中から見つける。</p> <p>15. 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の時間は、文字や行の中心に気をつけて自作の短歌や俳句を書くことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心がわかる文字のカードを黒板に貼る。</li> </ul>	<p>硬毛ペン（黒）</p> <p>プリント文字カード</p>		

### (3) 評価

- ・文字や行の中心に注意して、字形を整えて「風景」を書くことができたか。
- ・自分の課題をもち、意欲的に学習することができたか。

## 8 考察

### (1) 自分の課題に気付き、課題意識をもって学習に取り組むために

児童が自分の課題を明確に捉えられるよう、試し書きと教材文字を比べて、自分のめあてを考えさせた。そのめあてを共通のめあてとともに学習カードに記入させた。また、各自、分解文字を操作したり示範を見たりすることなどで、より一層課題を明確にでき、課題意識をもって意欲的に学習に取り組むことができた。

### (2) 楽しく意欲的に学習に取り組むために

児童が意欲的に学習に取り組めるよう、児童の個別の課題にそったいろいろな練習コーナーを設定した。

穂先の通り道ができていない児童は、二色筆コーナーに行き、薄い墨液をつけた筆の穂先に朱墨をつけて、模造紙に大きく書くことで、風がまえの穂先の通り道を確認できた。

分解文字コーナーでは、大きな分解文字を操作することにより、文字の中心や整え方を学習することができた。

水書板コーナーでは、普段、教師が使っている水書板に、児童が何回も大きな文字を自由に書き込むことができ、意欲的に学習することができた。

じっくりと何枚も練習したい児童は、教師の用意した練習用紙のほかに、自分の課題にあった練習用紙を自作して取り組む姿が見られた。

また、それでも課題が達成できない児童は、相談コーナーで、教師と一対一で手を添える方法で学習するなど、T.T.のよさもみられた。

用具も、毛筆だけでなく、硬筆、硬毛ペンなどを使うことにより、毛筆で学習した成果が硬筆にも生きるように工夫した。また、用紙を出し入れしやすいように書写ファイルを使用した。後片付けをきれいに手早くするために、筆洗い用びんに水を入れて各自持たせた。

### (3) 達成感、成就感につながる評価について

学習した成果をスクリーンコーナーで確認したり、掲示コーナーでまとめ書きと比べて展示したりした。ここでは、自分の向上したところを確認したり、友達同士でよさを認め合ったりして、達成感、成就感を得られる評価の場とし、意欲向上につながった。学習のまとめとして、各自学習カードに学習の成果を書き込み、自分の向上したところを確認した。

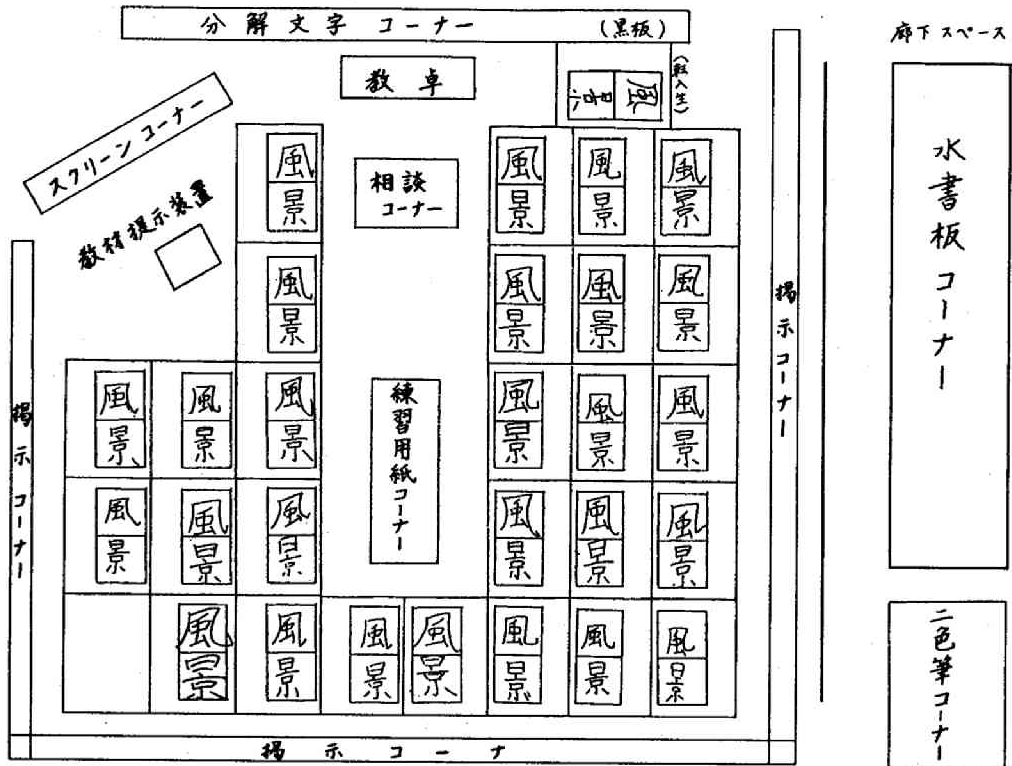
### (4) 日常生活に生かすために

日常生活に生かすためには、毛筆で学習したことを硬筆にも生かすことが大切である。そのために、常に、硬毛関連による指導を心掛けてきた。毛筆で大きく書くことにより、文字の中心や整え方を意識して学び、確認したことを、まとめ書きとして硬筆でも書いた。

文字感覚を高め生かせる場として、教室環境を整え、お互いに見合い高め合う中で、掲示物やノートに書く文字なども意識的に整えて書く姿勢が見られた。

9 資料

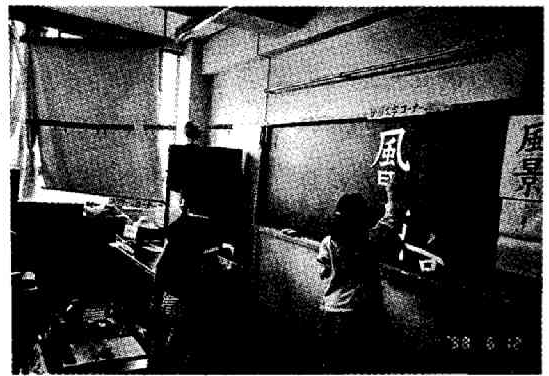
〈座席表と児童の硬筆の実態〉



〈硬筆プリント〉



(児童の名前から一文字ずつ取ったもの)



スクリーンコーナーと分解文字コーナー



硬毛ペンや鉛筆を使つての学習

## 〈中学校第1学年〉

### 1 単元名 行書（点画の連続、筆脈）

#### 2 単元の目標

- ・楷書と行書の違いがわかる。
- ・行書の特徴の一つである点画の連続など基礎的な筆使いを理解して書く。
- ・点画の連続により、楷書に比べて速く書けることを理解し、字形を整えて速く書くことができる。
- ・学習の成果を硬筆での書写に活用することができる。

#### 3 単元について

学習指導要領 第1学年〔言語事項〕(3)の指導事項イの後段に、「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。」とあるが、これは中学校で初めて取り上げる行書に関する事項である。また、中学校指導書にも行書の学習が中学校書写の主たる内容となるとある。実際に中学校の授業では、どの教科も小学校のときよりも内容が深まり、板書の量も大幅に増えている。そのため、ノートなどの日常の書写活動の場で、自分なりに崩した文字を書く生徒が増えてきた。このことは、文字を速く書く必要性を感じている生徒の現状から考えて当然のことであると思われる。このような機会を捉えて行書の正しい書き方を理解させ、基礎的な技能を身に付けさせることは上記に述べた生徒の実状からみてもその意義は大きいと考えられる。そこで、生徒の発達段階を考え、第1学年ではまず、楷書より速く書くことのできる行書の基礎を身に付けさせるように指導していくことが必要であると考え、本単元を設定した。

#### 4 研究主題との関連

##### (1) 自分の課題に気付き、課題意識をもって学習に取り組むための工夫

###### ① 自分の課題に気付かせるための工夫

- ・生徒に共通した課題を取り入れた見本を提示することにより、自分の課題に気付きやすくする。

###### ② 課題意識をもって学習に取り組むための工夫

- ・課題を点画の連続に絞ることによって、初めての行書学習に対する抵抗感をやわらげる。
- ・課題別練習用紙を用いて、自分の課題に意識をもって取り組ませる。
- ・まとめ書きの後、自分の課題を振り返らせ、自己評価するようにする。

##### (2) 楽しく意欲的に取り組むための工夫

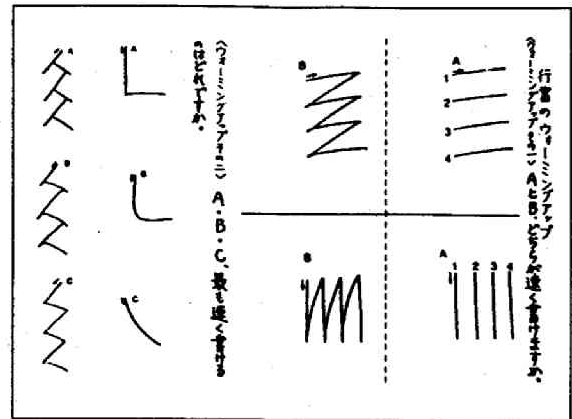
###### ① 使用するワークシートとそのねらい

- ・行書のウォーミングアップシート（どちらの方が速く書けるか）
- ・筆使いの比較シート（時間を計って比べてみる）
- ・確認用紙毛筆用（前時に学んだ筆使いの確認）
- ・点画の連続する漢字のワークシート（基本的な筆使いが毛筆と変わらないことに気付かせる。「月光」からの応用）



② T.T.による指導の工夫

- 一人が中心で授業を進め、もう一人がその補助という形のT.T.ではなく、それぞれが授業のある部分で中心となり指導を行う。その間、もう一方の授業者が机間指導を行い、生徒の質問に対応できるようにする。



行書のウォーミングアップシート

(3) 達成感、成就感につながる評価の工夫

① 学習カード

- 自己の課題を発見したものと、その解決方法の考察を記入する。  
(第2時)

- 学習後の成果を確認する (第2時、第3時)

(4) 日常生活に生かすための工夫

① 点画の連続する漢字のワークシート (硬筆)

- 点画の連続している部分を蛍光ペンでなぞることによって「月」「光」以外の日常よく使う漢字にも画の連続が多く含まれることを理解させる。
- 基本的な漢字を行書で練習することによって、日常の書写活動 (授業ノートなど) に活用していく。

5 生徒の実態

週5時間の国語の授業のうち、この学級は2時間を受け持っている。(1時間は書写、もう1時間は漢字、語句の指導にあてている。)漢字、語句の授業で新出漢字の指導を行っているが、生徒のノートを見ると、ほとんどの生徒がはね、はらい、折れ、曲がりなどに気を配りながら、一画一面を丁寧に書いている。書写の毛筆においてもその丁寧さは変わらないが、楷書では筆の穂先をうまく使って書くことに苦労していた生徒がかなり見られたので、そのつど手を添える方法で指導を続けてきた。

書写や漢字の領域においては丁寧に書く習慣が身に付いているが、板書を写したり、自分で考えたことをノートに書く場合は、自分なりに字を崩して速く書こうとしている生徒も出てきている。



点画の連続の課題 (試し書き)

第1時の授業において「月光」の試し書きを行った結果、点画の連続については、大きく分けて二つの課題が見つけた。一つは「月」の第3画から第4画に見られる横画の連続、もう一つは「光」の第4画から第5画に見られる横画から左はらいへの連続である。本単元では行書への抵抗感をもたせないためにも課題を絞って指導を行っていく方針である。今回のように二つ以上の課題についての取り組みをさせる場合、生徒一人一人の状況に応じて指導を行うのには、T.T.による指導法は大変有効である。

## 6 指導計画（3時間扱い）

第1時	①「月光」を楷書で書き、行書と比較して行書の特徴について気付く。 ②行書のウォーミングアップシートを用いて、行書の筆使い、特に点画の連続によって書く速さが変わることについて理解する。 ③練習用紙を用いて筆使いの練習をする。 ④「月光」を行書で試し書きをし、自らのめあてを考える。
第2時	①第1時の試し書きをもとにして作成した、生徒に共通している課題の見本を示すことによって、自分の課題を明確化する。 ②課題別練習用紙を用いて、個々の課題に取り組む。 ③「月光」のまとめ書きをする。 ④学習カードに自分の課題達成についての評価をする。
第3時 (本時)	①前時に共通の課題として取り上げた「横画の連続」「横画から左はらいへの連続」について毛筆で確認する。（「月」「光」以外の単純な文字） ②硬筆でも同じ文字を書かせ、基本的な筆使いが同じことに気付く。 ③横画の連続が含まれている漢字と横画から左はらいへの連続が含まれている漢字のワークシートを用いて練習する。 ④ワークシートにある漢字をいくつか選んで楷書と行書で書かせ、行書で書いた方が速く書けることを確かめる。 ⑤学習成果を自己評価したものを学習カードに記入する。

## 7 本時の指導（3時間扱いの第3時）

### (1) 目標

- ・前時までには習った毛筆の筆使いを硬筆に活用することができる。
- ・「月」や「光」と同様の、点画の連続を含む漢字を練習し、その基本的な書き方を身に付ける。
- ・点画の連続により、楷書に比べて速く書けることを理解し、字形を整えて速く書くことができる。

(2) 展 開

学 習 活 動	教 師 の 支 援		主 題 に 迫 る た め の 手 立 て																																												
	T 1	T 2																																													
<p>1. 横画の連続、および横画から左はらいの連続の注意点を確認する。</p> <p>2. 前時で学んだ筆使いの確認をする。 (毛筆)</p> <p>3. 点画の連続する漢字のワークシートのSTEP 1の作業をする。</p> <p>4. 点画の連続するところに蛍光ペンで印をつける。</p> <p>5. 点画の連続する漢字のワークシートの練習をする。(STEP 2)</p> <p>6. ワークシートにある漢字を選び、楷書と行書で書いてそれぞれの時間を計ったものを記録する。</p>	<p>本日のワークシートを配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横画の連続、横画から左はらいへの連続の注意点の説明。</li> <li>主に窓側3列の机間指導を行う。</li> <li>作業にてまどっている生徒の補助をする。</li> <li>印を付ける指示をする。(STEP 2の漢字のいくつかを選んで作業させる。)</li> <li>机間指導の際、字形を整えることに重点を置く。</li> <li>主に廊下側3列の机間指導を行う。</li> <li>ストップウォッチを使って秒読みをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水書板に筆使いを示範。</li> <li>注意点を書いた短冊を掲示。</li> <li>主に廊下側3列の机間指導を行う。</li> <li>基本的な筆使いは毛筆と変わらないことを説明する。</li> <li>作業にてまどっている生徒の補助</li> <li>主に窓側3列の机間指導を行う。</li> <li>楷書よりも行書の方が速く書けることを説明する。</li> </ul>	<p>(画用紙に挟んだもの)</p> <p>水書板</p> <p>短冊</p> <p>ワークシート① 確認用紙 (更紙2種)</p> <p>ワークシート② 点画の連続する漢字のワークシート ↓ (白色)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: right;">STEP 1</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>自</td><td>毛</td><td>木</td><td>思</td><td>由</td><td>早</td> </tr> <tr> <td>白</td><td>毛</td><td>末</td><td>思</td><td>由</td><td>早</td> </tr> <tr> <td>自</td><td>毛</td><td>末</td><td>思</td><td>由</td><td>早</td> </tr> <tr> <td>自</td><td>毛</td><td>末</td><td>思</td><td>由</td><td>早</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">・横画の連続</p>   <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>至</td><td>益</td><td>灰</td><td>衣</td><td>先</td> </tr> <tr> <td>至</td><td>益</td><td>灰</td><td>衣</td><td>先</td> </tr> <tr> <td>至</td><td>益</td><td>灰</td><td>衣</td><td>先</td> </tr> <tr> <td>至</td><td>益</td><td>灰</td><td>衣</td><td>先</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">・横画から左はらいへの連続</p> </div> <p>点画の連続する漢字のワークシート (一部)</p> <p>ワークシート③ 楷書と行書の比較シート (桃色)</p>	自	毛	木	思	由	早	白	毛	末	思	由	早	自	毛	末	思	由	早	自	毛	末	思	由	早	至	益	灰	衣	先	至	益	灰	衣	先	至	益	灰	衣	先	至	益	灰	衣	先
自	毛	木	思	由	早																																										
白	毛	末	思	由	早																																										
自	毛	末	思	由	早																																										
自	毛	末	思	由	早																																										
至	益	灰	衣	先																																											
至	益	灰	衣	先																																											
至	益	灰	衣	先																																											
至	益	灰	衣	先																																											

7. 学習成果を自己評価したものを学習カードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード記入の説明をする。</li> <li>・自己評価ができない生徒には助言を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明がわからない生徒の補助。</li> </ul>	ワークシート④ 学習カード (黄色)
------------------------------	--	---	--------------------------

## 8 評価

- 1 楷書と行書の違い、特に点画の連続により行書の方が速く書けることが理解できたか。
- 2 横画の連続及び横画から左はらいへの連続について、行書の基礎的な書き方で書くことができたか。

## 9 考察

### (1) 自分の課題に気付き、課題意識をもって学習に取り組むために

- ・生徒に共通した課題を取り入れた見本を提示し、生徒に気付いたことを発言させることにより、自分の文字と比較して、自分の課題に気付きやすくなった。
- ・行書という全く初めての単元なので、課題を点画の連続に絞ったことで、それぞれが目的意識をもって、大きな抵抗感をもたずに取り組むことができた。
- ・今回は最初の段階なので課題を絞って行ったが、画の連続についてはある程度できている生徒もいたので、今後は各自の課題にも対応できるように、自己修正や各自の課題で作成する練習用紙についても取り組ませていきたいと考えている。  
(実際に次の単元で行っている。)

### (2) 楽しく意欲的に取り組むために

#### ・行書のウォーミングアップシート

このシートは、楷書をイメージした図と行書をイメージした図が書かれているものである。これらの図を書く際にストップウォッチで時間を計ってみることによって、行書をイメージした図の方が速く書けるということ、すなわち、楷書よりも行書の方が速く書けるという点に気付かせることを主な目的としている。書写の授業というと、「書く」作業に終始してしまうところだが、ゲーム感覚で時間を計ったり、お互いに図について意見を言い合ったりすることによって授業にも活気が出た。

#### ・課題別練習用紙

これは、筆脈や文字のバランスをつかませるのに大変有効であった。ただ、練習用紙の種類が少なかったので、試し書きから生徒の実状を分析して、状況に対応した練習用紙をあと1～2種類用意した方がよかった。

この単元が終わった後、かご書きの練習用紙をもとに、各自の課題に合わせた自作の練習用紙を個々に作らせている。その意味で、この段階での練習用紙の使用は次段階へのステップとなった。

#### ・点画の連続する漢字のワークシート

このシートに提示してある漢字の、横画の連続部分と横画から左はらいへの連続の

部分を各自蛍光ペンを使ってなぞらせた。それによって、画の連続する部分への意識が高まり、その部分に注意して練習に取り組むことができた。

- 楷書と行書の比較シート

楷書と行書、どちらの方が速く書けるか時間を計ってみたが、文字によっては行書の方が時間のかかる生徒がかなりいた。問題点として、生徒がまだ行書に慣れていないということもあるが、4 cm四方の枠いっぱいには鉛筆で書かせたので時間がかかりすぎたということもあった。鉛筆よりなめらかに書けるサインペンやフェルトペンなど他の筆記用具を活用していくことも考えていきたい。

- T.T.による指導の工夫

T2がワークシート②の点画の連続について説明しているとき、2、3人の生徒がワークシートに書かれている文字で、横画の連続・横画から左はらいへの連続以外の点画の連続している部分に気付いて、T1に質問してきた。このようなことに対応できるのはまさにT.T.の利点と言えよう。また、時間を計るときやワークシートの作業の際の机間指導など、役割分担をして能率的に、またきめ細かく指導することができた。

### (3) 達成感、成就感につながる評価の工夫

- 学習カードの利用

試し書きの段階で自分の課題を見つけることは、まとめ書きやその後の発展学習において、生徒自身が目的意識をもって課題に取り組むという利点があった。

ただし、行書の導入段階においては、横画から左はらいへの連続など、生徒自身で課題の解決を見いだすことが困難な場合があるので、指導者側で課題解決のための手立てを示す必要がある。

単元のまとめ段階における学習カードには、まとめ書きにおいて、自分がその課題について達成したかという評価だけにとどまらず、行書の特性など、授業で説明したことが理解できたかという項目を設けることによって、その単元の総合的な評価を生徒自身で確認することができた。

### (4) 日常生活に生かすための工夫

- 点画の連続する漢字のワークシート

日常よく用いられる漢字を段階を追って提示（横画の連続の場合でいうと、2本の横画のあとに3本の横画の連続というように）し、説明を加えながら進めたので、理解を深めながら学習することができた。

- 日常の書写活動へ

授業の板書に行書を取り入れ、授業ノートに活用させたり、手紙や年賀状など、日常生活で活用できる教材を取り上げることによって、生徒の関心・意欲を高めることができた。

## V 国語科書写におけるティーム・ティーチングの考察と実践

### 1 書写におけるT.T.の有効性

今年度の主題に迫るためには、児童・生徒が課題意識をもち文字を正しく整えて書こうとする態度を育て、関心・意欲を持続できる力を培うことが重要である。そのための指導法としては従来のような教師が示範し、児童・生徒が説明を聞き、練習するという形態ではなく、個に応じた多様な指導が望ましいのは明らかである。また、21世紀を見据えた教育を進めるためには授業を質的に高めるという大きな命題が課せられている。これまで定着してきた1教室1教師からの転換をはかり、真に児童・生徒の側に立った指導形態を推進していかなければならない。つまり、これまでの指導観や評価観を変革するのにもっともふさわしい指導方法を取り入れていかなければならないのである。そこで今年度は主題に迫り、授業を質的に高める指導法としてT.T.に注目し、その有効性と可能性を考察し研究に取り入れることにした。

#### ① 1教室1教師からの転換

小学校では、これまでの教室の壁がなかなか取り除かれない、いわゆる「学級王国からの開放」がなされないままに今日に至っている。T.T.はこの壁を取り去り、真に児童の側に立った授業と評価の一体的な指導が可能となり、授業改善の道が築かれる。T.T.はこれまでの指導観を変革する指導法といえる。当然、国語科書写においても、一人の教師による一斉指導からの転換が図られなければならない。つまり、1学級2教師、1学級3教師等の指導に限らず、2教室分程度の広い教室の提供によって2学級2教師、2学級3教師の展開も可能となる。この場合単元によって、意図的・計画的・重点的な取り組みを進め、教師の専門性を考慮しながら、進められなければならない。

#### ② 役割分担の多様化

T.T.は複数教師によって、授業を構築していくものである。したがって、これまでの一斉形態からの脱皮として位置付けることができる。一斉で始まり一斉で終わる形態から、小グループを組み込み、学習効果を高めることが可能となる。つまり、一斉で始まり小グループに分かれ、再び一斉に戻る展開の場合などは、小グループの分け方に応じて、教師の役割分担も当然多様化してくるのである。

#### ③ 課題別学習

同一教材であっても、目標を達成するための一人一人の課題は異なる。T.T.を取り入れることにより、個々の課題に合わせて多様な解決方法や練習方法を取り入れることができる。児童・生徒は自分の課題を解決するために、様々な解決方法からもっともふさわしいと考えられるものを主体的に選択し解決に取り組むことができ、確実な課題達成が可能となる。

また、個々の課題を課題別にグループ化した場合も、個々のグループに応じた多様な解決方法を提示し支援することができる。

#### ④ 多様な学習方法

硬筆・毛筆の関連を意図的に組み入れた学習では様々な手立てが考えられる。これまでの半紙と筆からの授業を、コンピューター、OHP、OHC、水書板、分解文字等を活用した学習方法を取り入れることによって個別の意図的・計画的な取り組みが可能となる。その際これまで与えられた練習用紙を自作のものにしたり、選択の幅を広げたものにしていくことも可能となる。教師主体の学習から児童・生徒主体の学習へと転換していく契機として捉えたい。

#### ⑤ 習熟の程度に応じた学習

T.T.による授業では、習熟の程度に応じた学習展開がこれまでより、一層推進できるようになる。例えば第5学年での「字配り」の指導では、字配りの実態を段階的に分けて教師も習熟に応じて役割分担することができる。このように、課題をいくつかの段階に分けどこまで達成できたか自己評価しながら進めていくことができる。1時間に同一のねらいをもたせるのではなく、一人一人の達成度を見届ける展開をして意欲の持続化を図ることができる。

#### ⑥ 60分、90分授業の展開

T.T.によって児童・生徒の興味・関心の持続が図られることは、学習方法の選択などによっても一層高めることができ、指導効果が大きいものと判断される。つまり、指導時間を60分、90分授業に広げることによって、書写力の育成と、硬筆・毛筆の関連指導の充実を図ることができる。これまで発展段階では、時間的に足りない授業が多く毛筆だけで終えてしまう展開も多い。したがって、T.T.によって硬筆の指導も可能になる。

#### ⑦ 多面的な評価

複数教師による評価は、児童・生徒一人一人の持っている能力を引き出すばかりでなく、その子なりの成長をきめ細かく評価することができる。また、補助簿などの活用によって、日常的な評価に生かすことができる。このように評価観を広げて多面的な評価ができるようになるのである。授業全体においても、結果の評価から過程の評価へ、量の評価から質の評価へ、教師の評価から自己評価、相互評価へ、一時的評価から継続的評価へと評価観の転換も可能となる。



示 範



個 別 指 導

## 2 授業におけるT.T.の考察（小学校）

- 書写活動において筆順の指導は欠くことのできないものである。T1が「風」の筆順を指導する時、T2が筆順にあわせて板書をした。T2が「風景」の文字を板書し終えたとき、児童から自然に拍手がおきた。児童はT2の整った文字を見て感動を素直に表したのであり、筆順も確実に理解することができたと考えられる。T.T.においては教師の特性や個性にあわせて、明確な役割分担ができ、質の高い授業が可能となる。
- 「風」の基準を理解させる学習活動において、T1が基準の説明を進め、T2は説明にあわせて「風」の拡大文字を動かした。児童はT1の説明を聞きながら「風」の基準を視覚でとらえることができ、「風」の中心は7画目にあることや、「風」の2画目のそりの角度等の基準の理解を深めることができた。基準を確実に理解することで自分の課題づくりへとつなげることができた。
- 大きな模造紙を使用し二色筆で筆の穂先を示範する時、T2がその補助をすることですぐに示範ができ学習の流れにむだがなく効率よく指導が進められた。
- T.T.は指導範囲を広げることを可能にする。研究授業においては、教室内のスクリーンコーナー、分解文字コーナー、相談コーナーはT2の指導範囲とし、廊下や水飲み場付近にまで設定した水書板コーナー、模造紙コーナーはT1が支援した。その結果児童は多様な練習方法を選択することができ、楽しく意欲的に課題を解決する姿が見られた。T2が児童の質問に答えながら筆先の微妙な動きを書いてみせる相談コーナーで、そのあとののはねについて相談した児童はまとめ書きで力強くはねた「風」を書き上げていた。
- T1もT2も一人一人の児童に様々な言葉をかけて指導を進めていった。話しかけられた児童はどの子も嬉しそうな表情を見せ一層意欲的に学習に取り組んでいた。適切な声かけや評価は、自分は認められているという安定感を児童に持たせ、意欲や集中力を高めるとともに持続させることにつながる。
- 試し書きとまとめ書きを比較し、課題がどのように達成されたか、自己評価や相互評価をした時、T1もT2も児童の変容を結果だけでなく、まとめ書きにいたる経過も合わせて評価していた。1教師だけでは見落としがちなおとなしい児童に対しても複数教師であれば、その過程においてどのような変容が見られたか、確実に把握し適切な評価が可能となる。
- 硬筆文字に関連させて、中心のよくわかる文字を発見させる文字例を児童の名前の文字から発見させることにより、意欲を一層高めることができた。T.T.においては教材の準備開発が学習に適切なものとなり学習意欲を高めることが可能となる。



### 3 授業におけるT.T.の考察（中学校）

- ・行書体の点画の連続について、説明する際に、T1が説明し、それに合わせてT2が水書板に範書をしたり、ポイントを書いたボードを黒板に貼ったりすることで、時間的な短縮と授業を効率よく展開することを可能にした。
- ・T2が全体に説明している時に、個々の生徒の質問に対してはT1が詳しくわかりやすく答え、生徒の理解を深めさせていった。全体を説明するのはT2、細かい質問や疑問に答えるのはT1というような役割分担をする場面を作ることで、個への対応が図れた。
- ・複数の教師で指導することで生徒が作業している時の机間巡視にもゆとりができた。個別指導にあてられる時間がふえ、筆使いについて手を添えて指導することもでき、きめ細かい指導が生徒の意欲を持続させたと考えられる。
- ・授業後、生徒から次のような感想があった。

- \*うまく書けるようになった。
- \*少しできるようになった気がする。
- \*行書の方が速いことがわかった。
- \*慣れていない分（行書の方が）時間がかかった。
- \*もっと練習して、もっと速く書けるようになりたい。
- \*点画の連続が楽しかった。
- \*また〇〇先生に来てほしい。

- ・自分を過小評価しがちな中学生が「うまく書けるようになった。」「できるようになった気がする。」と感じる達成感はとても重要だと考える。ここまで、生徒の達成感を引き出したのは、生徒の「また〇〇先生に来てほしい。」という言葉にも表れているように、T.T.により一人一人に細かな指導ができたからであろう。教師側からの感想としても、一人が全体を進め、一人が個別指導にあたる場面が設定でき、余裕をもって指導にあたれたという意見があがった。

### 4 今後の課題

T.T.は国語科書写においても有効な指導方法であり、以上述べるように今後は、教師の意識改革と授業改善の中核的役割をめざすものとして認識しなければならない。一人で取り組んでいた授業を複数で取り組むことによる利点を全教科において、また学校全体が中・長期的展望に基づいた学校改革として認識することが求められている。国語科書写においても引き続き、T.T.の指導方法を模索し構築していかなければならないと考える。

## VI 研究のまとめと今後の課題

本年度は、「基礎・基本を身に付け活用できる書写指導の工夫」という主題で研究を進めてきた。主題自体は昨年度のものを引き継いだ形であるが、本年度は、特にT.T.という指導形態に注目し、その有効性や可能性をさぐりながら主題に迫るべく、授業研究を中心に考察を続けてきた。前述の仮説に基づき、4つの視点を柱に、T.T.による授業を通して研究を進めてきたことで、次のような成果が得られたと考える。

- 1 課題の発見、練習方法、評価方法、硬毛の関連など、それぞれの面から指導を工夫することで、児童・生徒一人一人に意欲が生まれ、活気ある取り組みができた。
  - (1) 試し書きと教材文字との比較、分解文字を自由に操作できる機会、拡大文字の使用などによって、自分の課題を明確化できた。
  - (2) いろいろな練習コーナーを設定することによって、自分の課題解決に、意欲的な取り組みができた。(特に二色筆を使用した練習は、基本的な筆使いを認識するためには有効であった。)
  - (3) 学習カードの工夫、掲示方法の工夫などから、自己評価、相互評価が円滑にでき、達成感、成就感が得られるとともに意欲の向上にもつながった。
  - (4) 毛筆で学習した内容を硬筆でも復習できるような練習用紙の工夫や、まとめ書きの機会設定によって、日常生活に生かそうとする態度が見られるようになった。
- 2 国語科書写におけるT.T.による指導の有効性がわかった。
  - (1) 示範や教材提示装置などの操作と解説をT.T.で分担することによって、授業進行にリズムができ、児童・生徒一人一人が集中して取り組み易い雰囲気づくりができた。
  - (2) 個に応じた助言ができることによって、児童・生徒一人一人に、自分の課題発見の機会を与え易くなり、課題意識の明確化が図れるようになったこととともに、達成感、成就感につながる評価も細かくできるようになった。
  - (3) T.T.で分担することによって、いろいろな練習コーナーを設けることができ、児童・生徒一人一人が意欲的に、進んで取り組めるようになった。
  - (4) 複数の教師で意見交換をする中で、練習用紙・評価用紙の作成、授業進行などについての考えが深められ、効果的な授業づくりができた。

今後の課題としては、次のようなことが考えられる。

- 1 書写指導にT.T.を積極的に取り入れようとする教師の熱意と理解、また、それを推進できるような学校の態勢づくりをどのようにしていくか。
- 2 書写指導におけるT.T.による授業のさらなる可能性を見つけ出していくこと。
- 3 ワープロ文字や活字にはない、人の書いた文字の魅力にふれる機会を、日常生活においてどのように設定していけるか。(例えば、学級・学年通信や教科通信、板書の文字、学習関係プリント類の作成など)
- 4 実際に文字を書く効果的な機会をどのように設定することができるか。(例えば、他教科や特別活動との連携などの形で)